

## 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和元年7月25日（木）午前10時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【会見項目1：8月1日は「長岡市恒久平和の日」 平和の尊さを次世代に伝える行事を開催】

（長岡市長）

長岡市は、昭和20年の空襲で1,488人の市民の尊い命が失われた、新潟県内唯一の大規模戦災都市です。今年の8月1日も「長岡市恒久平和の日」として戦災で亡くなられた方々を追悼するとともに、平和を願う行事を開催して、空襲の記憶を風化させることなく次の世代にしっかりと引き継いでいきたいと考えています。

まず、平和祈念式典ですが、昭和60年に始めた「非核平和都市宣言市民の集い」を、平成27年に「平和祈念式典」と改めて、今年で5回目の開催です。小・中学生を含めた市民約1,200人が参加します。広島平和記念式典に派遣される南中学校2年生の長谷川奏空さんによる平和の誓い、そして姉妹都市交流プログラム「原信サマースカラシップ」に参加する小千谷高校2年生の大淵朋美さんによる非核平和都市宣言の朗読など、若い世代の皆さんが平和への思いを発信します。

二つ目のながおか平和フォーラムでは、戦時中に長岡に疎開して空襲に遭い、高校の途中まで長岡で過ごされた作家の阿刀田高さんをお招きして、「長岡への思い」として記念講演を行います。

そのほか、南中学校2年生による平和学習の取り組みの成果発表、平和を願うオリジナル曲「誓い」の合唱、広島平和記念式典への派遣中学生の結団式なども行います。

三つ目の鎮魂たむけの花は、アオーレ長岡のホワイエを会場に、空襲で亡くなった方々を追悼する市民の献花を実施します。

そのほか、7月31日には平和の森コンサート、8月1日には平潟公園での戦災殉難者慰霊祭などの平和関連事業が行われます。慰霊、鎮魂、そして恒久平和を願う長岡まつりの趣旨からすると、8月1日の空襲の日が一つの大きな柱です。

1日の前夜祭を、平和祭に名称を変えて今年が2年目となりますが、改めてこの8月1日が長岡市民にとって本当に大切な日であること、そして平和について考える日であるということ、一緒に確認したいと思います。

（記者）

戦災殉難者が1,488人となったのはいつか、確認させてください。

（長岡市長）

昨年12月に確認し、今年1月に記者発表しました。2人追加して、1,488人となっています。

(記者)

市民の皆さんに、8月1日という日をどういった気持ちで迎えてもらいたいのか、改めてお聞かせください。

(長岡市長)

世界を見ると、戦争はやむを得ないことであるという考え方も依然としてあるように感じています。大きな被害を受けた経験を持つ長岡市の市長として、どのような理由があっても戦争はやるべきではないと思っています。

市民の皆さん、あるいは殉難者の皆さん、ご遺族の皆さん、関係者の皆さんにもそういう思いは強くあって、それが2日・3日の長岡花火に込められています。

戦争の悲惨な状態、特に長岡空襲で被災した市民の皆さん一人一人が大変な思いをしてこられた事実を、ぜひ若い方に語り継いでいきたいと思っています。

8月1日という日の意味は大変重いものであり、記憶が薄れていくようなことがあっては絶対にならないと感じています。

(記者)

記憶を伝えていく活動の一方で、語り部の方たちが少なくなっていく現状があります。今後、どのような活動で語り継いでいくのでしょうか。

(庶務課長)

平成29年度に空襲体験の紙芝居を製作し、市内の小学校に配布しました。今年度は空襲体験の紙芝居の演者の養成講座を行っています。

そのほか、体験を語っている様子を収録してDVD化したり、文字起こしして体験記録集として残しています。

(長岡市長)

今後も空襲体験を語っていただく新しい方を探すこと、そして残していくことが必要だと思います。

そのほかにも、長岡戦災資料館に展示している遺影はご遺族の協力によるものですし、長岡青年会議所さんが灯籠流しや平和学習を行ってくださっています。こういった平和について活動して下さる市民が増えれば、記憶の継承にもつながっていくかと思しますので、広がり期待しているところです。

## **【会見項目2：慰霊と復興、平和への願いを込めて 令和元年「長岡まつり」を開催します】**

(長岡市長)

令和という新しい時代に入って最初の長岡まつりということですので、たくさんのいろいろなイベントで盛大に開催したいと思っています。

民踊流しでは、長岡市出身の歌手、中澤卓也さんが、大花火音頭を歌います。大花火音頭は北島三郎さんが歌っているものですが、今年は山車の中で中澤さんが歌います。

昼行事ですが、2日は自転車競技のBMXフリースタイルのワールドシリーズで今年優勝した、長岡出身の片桐亮さんが迫力ある演技を披露しますし、3日は吉本興業のお笑いライブを行います。

そのほか、郵便局さんの協力でポストカーも登場しますので、ぜひ長岡の夏を楽しんでいただきたいと思います。

関連してPRしますが、栃尾地域の山信織物とホノルルのイオラニ社の提携によるアロハシャツの販売が開始されます。

ホノルルとの姉妹都市交流の中で、青少年の平和交流を中心として続けてきましたが、ぜひ経済的な面でも交流はできないかといろいろな方々とお話をしました。その一つの成果として、今回、このアロハシャツの販売が実現したということです。

今、私が着ているシャツがまさにそれなのですが、全米市長会議の際に来ていたら、ホノルルの人からこれはどこで買えるんだと質問されました。従来のアロハシャツのデザインからすると、少しモダンな感じですが、ホノルルでは非常にデザインがいいということで、いろいろな方から声をかけられました。

イオラニ社はいわゆる伝統的なアロハというよりも、センスがいいというか、そういったものを販売することで有名な会社で、社長のロイド・カワカミさんはミュージシャンとしても有名な方で、ホノルルでは非常に知名度のある会社です。

汗をかいてもサラサラとして肌触りがよく、しわになりにくいなど、栃尾の繊維の技術はイオラニ社でも高く評価されています。

価格は1万4800円で、数量限定の販売です。ハワイにおいては、これを着ていれば大統領の前に行っても差し支えないというフォーマルウエアですので、そういった格式もきっちり持った、いいものができたと思っています。

**(記者)**

今回、大花火音頭を中澤卓也さんが歌われるとのことですが、経緯を教えてください。

**(観光事業課長)**

令和になったということで、新しい試みができないかという中、主催の長岡商工会議所から中澤卓也さんへ依頼をしたところ快諾いただき、今回実現に至ったというところです。

**(記者)**

アロハシャツの素材の特徴をお聞かせください。

**(長岡市長)**

素材は化繊で、ポリエステル70%、綿30%ということです。

山信織物の生地は国内の有名アパレルメーカーでも使用されていて、高機能繊維の技術はまさしく

イオラニ社が求めるものだと、社長のロイドさんが言われていました。

(記者)

販売数に限りがあるということですが、具体的に教えてください。

(国際交流課長)

長岡市内では1万4800円で30着限定です。そのほか、イオラニ社のホームページから直接購入することができます。価格は135ドルで、そのときのレートによります。

(記者)

サイズはワンサイズでしょうか。

(国際交流課長)

XXS、XS、S、M、L、XLとあります。

(記者)

栃尾ではどこまで作っているのでしょうか。

(長岡市長)

生地とプリントを行っています。デザインと縫製などは、イオラニ社です。

(記者)

昨年、前夜祭を平和祭に名称変更してから今年2回目の開催となりますが、市民の参加意識の変化などを、市長が感じていらっしゃることをお聞かせください。

(長岡市長)

「平和」が本当に大切なんだということは、世代を超えて広がってきた感覚があります。

これは、小・中学生を中心とした子どもたちに、平和について粘り強くボランティアや関係者、あるいは行政、教育委員会が平和教育をやってきた成果だと思います。

## 【その他の質問】

(記者)

長岡花火に関して、窓口販売に徹夜で並んだ方がいて、整理券が配布され、販売日当日に買えなかった市民の方がいたことに対して、市長の受け止めをお聞かせください。

(長岡市長)

チケットの販売は、難しい問題だと思っています。

去年までは、市民枠70%のうち、4割のキャンセルが出ています。そういう流れの中で、長岡花火財団がいろいろ考えながら、今年の販売に臨みました。

その結果、さまざまな問題を指摘されて、変更がうまくいったわけではなかったと思っています。

その中で、私が来年に向けて花火財団に考えてもらいたいのは、もちろん、市民の皆さんにチケットを買ってもらって見ていただくことも大事ですが、一方では、花火に込められた慰霊、復興、平和

の想いを、日本全国、世界に向けて発信していくことを考えると、必ずしも「市民のため」だけの花火大会ではないわけです。そのバランスをどうとっていくかが大切になるのではないかと思います。

そういう意味では、今回「市民向け」という部分が軽んじられたと感じた方々がいらっしゃったのは事実ですので、バランスよくチケット販売の中で工夫いただきたいと思います。

(記者)

また市民枠を復活させてほしいとか、市長が現時点で財団に対する具体的なものはありますか。

(長岡市長)

市民枠の復活というよりも、市民の皆さんにしっかり買ってもらえるような仕組み、そして、そのメッセージが市民の皆さんに伝わるようにしてもらいたいというふうに思います。

だからといって、市民だけを対象にした花火大会、というのは本来の趣旨から外れてきますので、そこはやはりバランスが必要だと思います。

(記者)

観覧チケットがインターネットで高額で転売されているのですが、市長はどう感じていらっしゃいますか。

(長岡市長)

転売をどうやったら防げるかという問題だと思います。ほかの大きなイベントの対応も参考にしながら、適切な手段がとれるならしっかりと講じたいと思います。

(記者)

身分証明書、パスポートなどの提示を義務づけるとか、電子チケットという方法もあると思うのですが、いかがでしょうか。

(長岡市長)

中国の深圳ではチケットと顔認証をセットで行うようですが、花火大会のそれぞれのゲートでそれができるかという点、今の日本のインフラの中では難しいと思います。何か有効な手段があればと思っています。

(記者)

今年は金曜、土曜日の開催で、例年よりも多くの方が来られると思いますが、準備の具合はいかがでしょうか。

(長岡市長)

多くの方々から来ていただけるのは間違いないと思っています。何よりも安全が一番大切ですので、そこは長岡市行政としても全力を挙げて協力したいと思っています。

(記者)

長岡花火の正式名称は「長岡まつり大花火大会」というように、長岡まつりの一部ですけれども、花

火大会を長岡花火財団が主催するようになって、何となく「まつり」の一体感がないような感じを受けますが、市長はどのように感じていらっしゃいますか。

(長岡市長)

私は必ずしもそういう印象は持っていません。長岡花火は慰霊、復興、平和とへの願いという大きなテーマを持って打ち上げていて、それは東北でも、ホノルルフェスティバルでも毎年打ち上がっています。そういう意味では、慰霊、復興、平和への願いというのは長岡まつり本来の趣旨そのものですので、そこに何か隔たりがあると感じていません。

長岡花火を通年観光の目玉にしたいということで「花火館」をつくっていますので、そういう意味では長岡まつりのうち「長岡花火」がどんどん大きくなっていく、という印象は受けるかもしれませんが、その根っこは長岡まつりの慰霊、復興、平和です。

(記者)

今までは、長岡まつりのほかの各イベントを長岡花火が支えるというような形があったと思うのですが、そこが分割されて、長岡花火が大きくなるがゆえに、ほかのイベントが対照的に縮小されていくのではと心配されている方もいらっしゃいます。

その辺の、まつりの実施にあたっての財政的な裏づけを教えてください。

(長岡市長)

長岡花火に協賛していただいた方々は、花火だけではなくて長岡まつり全体に協賛しているという思いの方もいらっしゃると思いますので、花火だけが栄える、というご心配がないように配慮したいと思います。

(記者)

例えば長岡花火財団からまつりに対する補助のようなものを期待しているということでしょうか。

(長岡市長)

例えば、花火大会のチケットの収益は誰に帰属するのかと考えれば、必ずしも一団体に帰属することではなくて、国土交通省から河川敷を借用し、警察にも協力いただき、長岡市職員も協力し、市民のボランティアの皆さんが大勢そこに入って、その結果の収益、とも考えられます。

長岡花火財団も、そういう長岡まつり全体をどうするかという思いは強く持っていると思いますので、そこは調整ができるかなと思っています。

(記者)

長岡市をはじめとして、火焰型土器を東京オリンピックの聖火台に、と活動してきた中で、今回、太陽をイメージするのではとの報道がありました。これについて、市長の受け止めをお願いします。

(長岡市長)

聖火台への要望は、信濃川火焰街道協議会や長岡市で組織委員会に何年もかけて提案してきたものです。私たちには正式に通知ありませんが、もしそうなら残念に思います。

いずれにしても、オリンピックはスポーツと文化の祭典です。日本の文化を世界に発信する場でもあり、いろいろなイベントもたくさんありますので、その中で火焰土器や縄文文化を発信していきたいと思っています。

(記者)

先日の参議院選挙の結果について、所感をお願いします。

(長岡市長)

全体的には、やはり簡単に分析できない、さまざまな要素があったのではないかなと思っています。それがこれからの日本の政治にどういう影響を与えるか、注意深く見守る必要があると思っています。

県内を見ると、政策論争や主張がされたと感じられない中で終わってしまったと感じています。もっと政策的な違い、それぞれの訴えがあったほうが、新潟県にとってはよかったなと率直な感想を持っております。

(記者)

政策以外のところで決まった、と受け止められますが、そういうことでしょうか。

(長岡市長)

政策そのものの主張があまりなかった、という意味です。

例えば、今、新潟県は何が問題かということ、やはり経済的な問題ですよね。経済政策をどうするのか、産業をどうするのかというのが大きな課題だと思うのですが、そういった訴えが聞こえないというか、なされていないという印象を持ったということです。

(記者)

各候補がそこを明確に打ち出していなかったということでしょうか。

(長岡市長)

そういう印象を持ったということです。

(記者)

政策が明確に打ち出されていない中、長岡では1万票くらいの差がついたわけですが、何が原因なのでしょう。

(長岡市長)

それはいろいろな要素があるのだろーと思います。それを何かこれはこうだとなかなか言えないと思いますが、政策以外のところで決まったということではないでしょうか。

(記者)

例えば塚田候補はご自身の発言等の問題がありましたし、投票日の直前には比例区選出の議員のスキヤンダルなどが出てきた。本来だったら政策が優先される選挙の中で、そういうもので決まってしまった感があるということでしょうか。

(長岡市長)

そういうことですね。政策とは関係ないところで何か流れができたのでしょうかね。その辺はよくわかりませんが、やはり政策で選挙をやってもらったほうがよかったと思っています。

(記者)

塚田候補と打越候補の演説会や集会を取材している際、市長を見かける機会がほとんどなかったと感じています。選挙戦の間、市長がどのようなスタンスで臨まれていたのか教えてください。

(長岡市長)

基本的に市政というのは、ある種の政治的な主張などに基づいて行うものではないと思っていますので、私が選挙に出たときは市民党という旗も掲げています。

そういう意味で、政治状況の中に自分が突っ込んでいって、そこに加担していくということは基本的には私はとれないと考えていますので、その結果、今回も両候補に対して積極的な支援という形はとらなかったということです。

(記者)

応援の依頼自体はあったけれども、不偏不党を貫いたということでもよろしいでしょうか。

(長岡市長)

それでよろしいかと思います。

(記者)

東京オリンピックでは、お台場に設置予定の聖火台は、まだデザインが不明という報道がされています。長岡市、また信濃川火焰街道協議会として、引き続きそちらの聖火台への採用を求める要望活動を行っていくのでしょうか。

(長岡市長)

先ほども申し上げたように、具体的な通知や連絡もありませんので、私たちの提案を生かしてもらいたいという運動を粘り強く続けていきたいと思っています。

(記者)

参議院選挙について、県内で国政の与党、野党の政治地図が変わることによって、市政に影響があったことはあるのでしょうか。

(長岡市長)

その検証は難しいと思います。ある状況の中で、ない状況を実際にやることは現実的には無理なわけです。野党議員だから国は全然面倒を見ないということがあったら、国の制度そのものがひっくり返ってしまいますので。ただ、影響が全くないということはないと思います。

(記者)

今おっしゃった影響というのは、政治家が個人的にどれだけ新潟のことを思いながら頑張ってくれるか、逆に言えば与党、野党関係なくて、人による、ということでしょうか。



(長岡市長)

もちろん人によるという場合もあると思いますが、あまりそれに自治体や市民の皆さんが極端に反応されるのはちょっとどうかなと思っています。